

令和 5 年 6 月 10 日現在

機関番号：24405

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2019～2021

課題番号：19H04360

研究課題名(和文) 東アジアの変容する移動ネットワークと創発的紐帯の形成：生活圏についての実証的研究

研究課題名(英文) Transformation of mobile networks and the formation of creative ties in East Asia: An Empirical Study on the Living Area

研究代表者

伊地知 紀子 (IJICHI, NORIKO)

大阪公立大学・大学院文学研究科・教授

研究者番号：40332829

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,090,000円

研究成果の概要(和文)：東アジアにおける政治や経済変化、紛争の影響による生活環境の変化により、人びとが営む日常における紐帯の切断及び変容を捉えながら、紛争と再生、ケアとキンシップ、信仰と帰属、環境と市場経済という4系から、生活圏の変容と再編を複眼的に示すことができた。研究期間にCOVID-19感染拡大が重なったことにより、計画の様々な部分についてかなりの調整をしながらの実施となったが、定期的な文献研究会を実施し、関連する研究会との共催や、国際セミナー、国内外の研究者との研究交流やフィールドワークにより、研究展開について各自の調査研究にかかる新たな視点を見出すことができ、研究成果の報告や論文・書籍の刊行が可能となった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

19世紀末以降の東アジアでの社会変動にともなう移動の質的变化について、韓国・日本・ベトナム・マレーシア・ネパールでの移動の具体像を時代背景とともに、異動に伴う分断、喪失、連帯をめぐる紐帯の生成と変容を主軸とし、関係・ネットワークの形成、扶助・紛争をめぐる共同性、衣食住をめぐる実践の事例を蓄積し比較分析した。これらを通して、歴史変化のなかで各地に生じた移動形態の多様化とそこから創り出される紐帯を村レベル・都市レベル・国家レベル・世界レベルから考察し、移動にともなう生活世界の変容と再編の個別性と遍在性を明らかにすることを試みた。

研究成果の概要(英文)：The qualitative changes in movement due to social changes in East Asia after the end of the 19th century were compared and analyzed with historical background in Korea, Japan, Vietnam, Malaysia and Nepal, where representatives and contributors have accumulated research. The key points were (1) the generation and transformation of ties surrounding movement, division, loss and solidarity that people have experienced; (2) the formation of relationships and networks; the communal nature surrounding assistance and disputes; and the practice of food, clothing and shelter. Through these, we tried to examine the diversification of forms of movement that occurred in various places during historical changes and the links created from them from village level, city level, national level and world level.

研究分野：文化人類学、生活世界の社会学

キーワード：東アジア 移動ネットワーク 創発的紐帯 生活圏 共同体 共同性

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

19世紀末以降の東アジアは大規模な社会変動を経験してきた。植民地支配と市場経済導入による列強の支配と統治は、冷戦体制確立とその解体後の地域の分断、統合、グローバリゼーション、ネオリベラリズムの席卷のなかで様態を変えながらも温存され、ミクロな生活圏の再編を引き起こしてきた。本研究が対象とする、韓国、日本、ベトナム、マレーシア、ネパールは、こうした列強が引き起こした変動の周縁部として位置付けられながら、植民地帝国化によるそれぞれの変化を経験してきた地域といえる。

これら各地域における社会変化への「個人の主体的対応」と「生活圏の再編」をめぐる研究成果は、移動がグローバル化するなかで最も周縁化される地域での丹念なフィールドワークにより蓄積されはじめている。

### 2. 研究の目的

19世紀末以降の東アジアは大規模な社会変動を経験してきた。植民地支配と市場経済導入による列強の支配と統治は、冷戦体制確立とその解体後の地域の分断、統合、さらにグローバリゼーション、ネオリベラリズムが席卷するなか、様態を変えながらも温存され、ミクロな生活圏の再編を引き起こしてきた。こうした状況のなかで移動していく人びとは、新たな紐帯を生成する一方で、親族・同郷ネットワークや故郷とのつながりの活用、職業あるいは信仰集団への帰属の維持といった「伝統への回帰」とも見做されうる選択もとる。そこで本研究では、個人の断片化、共同体の液状化が問題視される現代社会において、東アジアの諸経験から生じた移動、分断、喪失、連帯を経験してきた人びとが築いてきた多様な他者との柔軟な紐帯の形成に着目し、生活圏が再編されていく様相を読み解きその個別性と接合可能性を生活世界の論理から分析するための具体的で有効な視点を提示することを目指す。

### 3. 研究の方法

既存研究の検討：東アジアの移動に関する先行研究を検討しながら、移動とこれにともなう生活世界の潜在力について共通の視座を共有するために、分担者および協力者とともに研究会を開催し、社会的視点に人類学的知見も重ねながら考察。

インテンシブなフィールド調査：紛争・和解班は韓国、ベトナム、日本を対象地とする。ケア・キンシップ班の調査地はベトナム、マレーシア、日本である。信仰・帰属班はベトナム、中国を対象地である。環境保全・市場経済班の対象地はネパール、日本である。各自がフィールドでの人びとの移動時期や経路、移動時の地域社会、移動先での生活、送り出し側の生活変容についてフィールド調査を実施。

代表者および分担者による中間的検討、研究協力者との調査成果の共有、隣接テーマにかかる研究者との意見交換：各インテンシブ調査で得られた成果の経過報告を共有する研究会を開催し、加えて幅広い視野から本研究の経過と進展について検討すべく、隣接テーマについて調査している研究者を招いて意見交換を実施し研究成果を振り返り次年度以降の方向性について検討。

研究成果については、各自が国内外の学会・研究会での報告、論文発表を行う。また、最終

年度には国内あるいは国際学会でシンポジウムあるいは共同報告を実施。

#### 4. 研究成果

初年度は、各自がフィールドで蓄積してきた知見と本研究課題との連関について相互参照し、継承の分裂あるいは断絶を経験した共同体が何をどうつなぎ合わせるのかという点について共有しつつ、今後の方向性について確認した。対象者としては、高齢者、少数民族、海民、女性などである。労働環境としては、農業（被雇用者）、零細漁業、ケア労働、市場での行商など末端に位置付けられる領域である。本課題では、東アジアにおける政治や経済変化、さらには紛争の影響による生活環境の変容によって、人びとが営む日常の何が切断され、変貌したのかを捉えながら、多様な切片の接合可能性の創出について、相互の知見を参照することで異なる角度から各自の研究を再照明する手がかりを得ることができた。

2年目および3年目は、はCOVID-19感染拡大のため、全体の計画の再調整を行なった。各自のフィールドワークの蓄積と本課題を踏まえた応用可能性を模索すべく、文献研究会を定期的に開催した。また、文献研究会を経て、各自の応用可能性を結びつけるためのワークショップを開催した。具体的には、各自の調査成果と発展的展開につながる文献に基づく研究報告を行い、代表者・分担者とともに本課題の論点に重ねながら検討を行うというものである。いずれも、行動制限のかかる中で、オンラインと対面の同時開催を実施した。国内での調査や海外出張ができず、予定していた研究計画はほとんど進まなかったが、制限下で可能な取り組みを実施することにより、当初は構想しえなかった議論との連携を見出すことが可能となった。具体的には、ケアの融通をおこなう様相から家族・親族・隣人関係の捉え直しについて描き出した文献研究会を開催し、タイをフィールドとするゲストによるコメントを受けることで、関連地域の知見を得ることができた。また、ベトナム関連の人類学研究会である「百越の会」で本研究課題にかかるテーマに関する研究会を開催した。ベトナムについては本課題が対象とする以前の時代における女性像について、また本課題の対象領域ではないが隣接地域となる台湾の祖先祭祀の変容について、ゲストによる報告2本へのコメントを本研究課題の分担者が担当した。代表者、他の分担者も参加し、非常に示唆に富む知見を共有することができた。また、済州島でのワークショップ、ベトナムでのワークショップおよび共同調査についても現地研究者との今後の展開可能性を検討することができた。

最終年度には、ベトナムにて、中越国境地域でのフィールドワークをようやく実施した。ハノイ国家大学のChinh nguyen van教授に同行いただき、この地域の移動ネットワークと共同性について歴史的背景とともに現状についてのレクチャーを受けながらの調査を実施した。加えて、本課題による調査成果のうち、ベトナムでのフィールドワークをベースにした論文作成に向けた研究会を定期的に開催し、Journal of Vietnamese Studiesに投稿するため英語論文としてまとめた。また、韓国済州道での国際セミナーを開催した。済州大学校人文大学社会科学の高誠晩准教授によるレクチャーと、本課題代表者および分担者との意見交換を行った。また、済州の移動ネットワークと共同体についてフィールドワークを実施した。

本課題の研究期間にCOVID-19感染拡大が重なったことにより、計画の様々な部分についてかなりの調整をしながらの実施となったが、定期的な文献研究会を実施し、関連する研究会との共催や、国際セミナー、国内外の研究者との研究交流やフィールドワークにより、代表者および分担者それぞれが有益な知見を得て、研究展開について各自の調査研究にかかる新たな視点を見出すことができ、各自による研究成果の報告や論文・書籍の刊行が可能となった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計22件（うち査読付論文 8件 / うち国際共著 1件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 伊地知紀子	4. 巻 10
2. 論文標題 序：何が書かれるのか、何を書こうとするのか 特集 女が書く、女を書く：文学の中の在日朝鮮人女性	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 コリアン・スタディーズ	6. 最初と最後の頁 1-3
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 加藤敦典、岩井美佐紀、比留間洋一	4. 巻 38
2. 論文標題 ベトナム・ハティン省における高齢者をめぐるケア・レジームの配置 村落地域の高齢者世帯と社会養護施設を中心に	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 京都産業大学論集（社会科学系列）	6. 最初と最後の頁 97-127
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 櫻田涼子	4. 巻 18
2. 論文標題 マレー半島のチャイニーズの食文化 移民・都市・ジェンダー	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 華僑華人研究	6. 最初と最後の頁 99-112
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 櫻田涼子	4. 巻 88(3)
2. 論文標題 モノがつくる社会関係 中国南京とマレー半島南部の華人婚姻儀礼にみる住宅と女性の身体	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 経済志林	6. 最初と最後の頁 137-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸徐映里奈	4. 巻 36
2. 論文標題 「難民化」経験の多様性 - 在日ベトナム難民の出国背景に注目して	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 人権問題研究所紀要	6. 最初と最後の頁 87-108
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸徐映里奈	4. 巻 112
2. 論文標題 ベトナム人住民による農地利用 - 異国の地を耕す意味	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 すまいるん	6. 最初と最後の頁 26-29
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸徐映里奈	4. 巻 37
2. 論文標題 外国籍住民と自治会活動 公営住宅から戸建住宅へ	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 人権問題研究所紀要	6. 最初と最後の頁 43-69
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 古川彰・中村律子・アムリット バジュラチャリヤ	4. 巻 22
2. 論文標題 アムリット バジュラチャリヤ、「重なる災害と小さなコミュニティの対応 (その1) ネパール・パタン市I地区の高齢者ケア実践を事例に	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 法政大学人間福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 26 - 5
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 古川彰・中村律子・アムリット バジュラチャリヤ	4. 巻 23
2. 論文標題 重なる災害と小さなコミュニティの対応(その2)ネパールにおけるコロナ感染を経験したコミュニティの高齢者ケア実践	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 法政大学人間福祉学部紀要	6. 最初と最後の頁 9 - 32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芹澤知広	4. 巻 9
2. 論文標題 一九五零年前後越南南部華人宗教與中國本土之關係：以基督教和佛教爲中心	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 Chinese Southern Diaspora Studies	6. 最初と最後の頁 111-124
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 中川加奈子	4. 巻 1
2. 論文標題 近代化と肉食タブー：ネパールにおける「肉売りカースト」の人びとの試み	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 立命館大学嗜好品研究会研究発表会報告集	6. 最初と最後の頁 79-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松田素二	4. 巻 43
2. 論文標題 都市の記憶XIII 多重の犠牲者が突きつけたもの～広島三菱元徴用工被爆者問題から考える～	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 平和文化研究	6. 最初と最後の頁 2-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 伊地知紀子	4. 巻 8
2. 論文標題 済州島の日常から - 潜る女と潜らない女	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 抗路	6. 最初と最後の頁 70-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川加奈子	4. 巻 46
2. 論文標題 ネパールにおける公衆衛生の管理強化と「肉売りカースト」の戦術的適応-「白い肉」と「赤い肉」をめぐる文化政治を中心に-	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 社会人類学年報	6. 最初と最後の頁 65-92
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 芹澤知広	4. 巻 150
2. 論文標題 ヌン族の華人の宗教施設に見るベトナムと移民先国家との関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 客家族群與全球現象 (国立民族学博物館調査報告No. 150)	6. 最初と最後の頁 131-149
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.15021/00009533	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸徐映里奈	4. 巻 86(6)
2. 論文標題 在日ラオス人・ベトナム人農家の誕生 - 日本で南国野菜を育てる人びと	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 農業と経済	6. 最初と最後の頁 18-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 瀬戸徐映里奈	4. 巻 118
2. 論文標題 多角的展開をみせる都心のベトナム料理店	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 食の文化誌 Vesta	6. 最初と最後の頁 30-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Motoji Matsuda	4. 巻 9
2. 論文標題 Legitimacy in Conviviality Learning from Legitimacy: Ethnographic and Theoretical Insights	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 URBANITIES Journal of Urban Ethnography	6. 最初と最後の頁 83-86
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 該当する

1. 著者名 加藤敦典	4. 巻 33
2. 論文標題 ベトナムから来日する女性の看護師・介護福祉士候補者たちのライフコースと家族規範 先行研究の整理と展望	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 比較家族史研究	6. 最初と最後の頁 80-94
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11442/jscfh.33.80	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 加藤敦典	4. 巻 14
2. 論文標題 「ベトナム村落の独居高齢者をめぐる家族規範の形成と実践の複相性：文化人類学的研究」研究経過報告書	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 京都産業大学総合学術研究所所報	6. 最初と最後の頁 137-146
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -



1. 著者名 芹澤知広	4. 巻 150
2. 論文標題 ヌン族の華人の宗教施設に見るベトナムと移民先国家との関係	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 客家族群與全球現象（国立民族学博物館調査報告）	6. 最初と最後の頁 131-149
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 中川加奈子・葛西映史子・古川彰	4. 巻 133
2. 論文標題 フィールドワークにおける実感の越境性についての一考察—古川彰研究室のネパール共同調査を事例として	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 関西学院大学 社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 45-60
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計28件（うち招待講演 5件 / うち国際学会 15件）

1. 発表者名 伊地知紀子
2. 発表標題 済州4・3の犠牲者と遺族 存在の規定とジェンダー、そして在日済州人
3. 学会等名 アジアの脱植民地化とジェンダー秩序—女性たちの経験と集合的記憶の再構築
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊地知紀子
2. 発表標題 境界を生きる人びと—在日済州島出身者の生活世界
3. 学会等名 韓国研究財団重点研究所支援事業「在日ディアスポラの生態学的文化地形とグローカリティー」（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 伊地知紀子
2. 発表標題 済州海岸集落の信仰生活と越境する生活世界
3. 学会等名 済州国際協議会「済州 大クッ ユネスコ人類無形文化遺産登録のための国際学術セミナー（招待講演）（国際学会）」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤敦典
2. 発表標題 儒教的祖先祭祀モデルの複相性 現代ベトナム村落における家屋と居住と祭壇
3. 学会等名 比較家族史学会第68回春季研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤敦典
2. 発表標題 コミュニティのジェンダー：ベトナムの多世代相互扶助クラブと女性たち
3. 学会等名 東南アジア学会第103回研究大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 加藤敦典
2. 発表標題 ベトナムの高齢者ケア・レジーム 比較研究のポイント
3. 学会等名 ワークショップ「東アジアと東南アジアにおける高齢者の居住形態の選択」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松田素二
2. 発表標題 被傷性の人類学 / 人間学に向けてー被傷性・共。同体・ネオテニー
3. 学会等名 国立民族学博物館 第一回共同研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Motoji Matsuda
2. 発表標題 Global Sustainability as a Weapon of the Strong?
3. 学会等名 現代のグローバル社会の課題に関する 学際的国際シンポジウム 2021 (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 伊藤まり子
2. 発表標題 『辞める』という選択を受け入れる 現代ベトナム都市における高学歴女性のキャリア実践ー
3. 学会等名 白山人類学研究会2022年度第7回
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 櫻田涼子
2. 発表標題 残される者の居場所 マレーシア華人社会の子どもと高齢者の日常から考える
3. 学会等名 日本文化人類学植松東アジア研究基金「東アジアの高齢者の住まいと居場所 アタッチメントとディタッチメントの両面に注目して」研究会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 櫻田涼子
2. 発表標題 働くこと、腹を満たすこと 中国南部からマレー半島へ移動した中国人と食文化
3. 学会等名 極東証券寄付講座「東アジアの伝統と挑戦」
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 洪ジョンウン
2. 発表標題 大阪地域の民族運動と女性活動家
3. 学会等名 ソウル大学日本研究所 大阪市立大学人権問題研究センター研究会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 洪ジョンウン
2. 発表標題 一世在日朝鮮人の子どもが経験する移住、そして家族
3. 学会等名 大阪市立大学人権問題研究センター サロンde人権
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Kanao Nakagawa
2. 発表標題 Transforming caste into networks for business opportunities: a case study from the meat sellers in Nepal
3. 学会等名 Himalayan Studies Conference Toronto 2022（国際学会）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Satohiro Serizawa
2. 発表標題 Toward a Comparative Study of the Lunar New Year Lantern Festival in Southeast Asia
3. 学会等名 ISSCO XI: International Society for the Study of Chinese Overseas 30th Anniversary Conference (国際学会)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Kato Atsufumi
2. 発表標題 Does community care? The Intergenerational Self-Help Clubs in Ha Tinh province, Vietnam
3. 学会等名 13th Next-generation Global Workshop: New Risks and Resilience in Asian Societies and the World (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 櫻田涼子
2. 発表標題 選択肢のはざままで揺らく決心 マレー半島における華人女性の移動と都鄙関係
3. 学会等名 IPCR東南アジア研究の国際共同研究拠点「中国と東南アジアにおける政治経済的変容と女性の移動」研究会 (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 櫻田涼子
2. 発表標題 拡張された「ホーム」としての飲食空間 移民・都市・ジェンダー
3. 学会等名 華僑華人学会研究大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 芹澤知広
2. 発表標題 ホーチミン市とメコンデルタにおけるベトナム華人の歴史文化遺産
3. 学会等名 韓国・仁川大学中国学院及び中国・華僑文化研究所主催国際ウェビナー（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Kanao Nakagawa
2. 発表標題 The Modernization of the Meat Industry and Its Tactical Adaptation by the People of "Meat Seller Caste" in Nepal
3. 学会等名 The 12th INDAS-South Asia International Conference（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Noriko IJICHI
2. 発表標題 Post-liberation migration to Japan and the lifeworld of Korean women from Jeju Island, South Korea
3. 学会等名 AAS-IN-ASIA CONFERENCE（国際学会）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 伊地知紀子
2. 発表標題 市民交流の軌跡をたどる
3. 学会等名 日本社会学会 日韓・韓日共同セミナー「未来の友好協力のための社会学からの提言」
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Motoji Matsuda
2. 発表標題 Two marginalized (invisible) worlds of the contemporary Japanese Society Rural village society and urban slum quarter
3. 学会等名 East Asian Junior Workshop (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 加藤敦典
2. 発表標題 動揺としての祖先祭祀 ベトナム村落部における『家族の祠堂』建設ブームの分析
3. 学会等名 第101回東南アジア学会研究大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mariko Ito
2. 発表標題 Hybridity in the Creation of New Religious Space
3. 学会等名 The 11 th International Convention of Asian Scholars (ICAS11) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kazuhiro Serizawa
2. 発表標題 The Gods Worshipped by the Hoa Nung, an Ethnic Chinese Group Originated on the Northern Border in Vietnam
3. 学会等名 The 11 th International Convention of Asian Scholars (ICAS11) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kanao Nakagawa
2. 発表標題 The Rearrangement of Social Relationships Mediated by the Marketization of Buffalo Meat :A Case Study from Caste-Ordained Meat Sellers in Nepal
3. 学会等名 IUAES inter congress ( 国際学会 )
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 瀬戸徐映里奈
2. 発表標題 ベトナム難民の故郷の「食」が結ぶ多様な繋がり - 食材の調達に着目して
3. 学会等名 松下幸之助国際スカラシップフォーラム特別シンポジウム「亡国の越境者たちと神戸・姫路」
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計19件

1. 著者名 伊地知紀子他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 496
3. 書名 阪神都市圏の研究	

1. 著者名 伊地知紀子他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 332
3. 書名 和解をめぐる市民運動の取り組み	



1. 著者名 伊地知紀子・川野英二他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 民俗苑	5. 総ページ数 335
3. 書名 人類学と济州学の視線から济州島を読む	

1. 著者名 加藤敦典他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 大阪大学出版会	5. 総ページ数 312
3. 書名 かかわりあいの人類学	

1. 著者名 加藤敦典他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 京都大学学術出版会	5. 総ページ数 386
3. 書名 東アジアは「儒教社会」か？	

1. 著者名 加藤敦典、伊藤まり子、芹澤和広、瀬戸徐映里奈他	4. 発行年 2023年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 440
3. 書名 現代ベトナムを知るための63章【第3版】	

1. 著者名 瀬戸徐映里奈他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 学芸出版社	5. 総ページ数 208
3. 書名 まちを変える都市型農園 コミュニティを育む空き地活用	

1. 著者名 櫻田涼子他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 時潮社	5. 総ページ数 232
3. 書名 食の世界を生きる 食の人類学への招待	

1. 著者名 中川加奈子他	4. 発行年 2022年
2. 出版社 昭和堂	5. 総ページ数 320
3. 書名 南アジアの新しい波 上巻	

1. 著者名 芹澤知広他	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ヌルミン出版社	5. 総ページ数 416
3. 書名 移民：香港の人々の移動から	

1. 著者名 松田素二	4. 発行年 2021年
2. 出版社 世界思想社	5. 総ページ数 286
3. 書名 集合的創造性 コンヴィヴィアルな人間学のために	

1. 著者名 松田素二	4. 発行年 2021年
2. 出版社 山代印刷株式会社出版部	5. 総ページ数 372
3. 書名 日常実践の社会人間学 都市・抵抗・共同性	

1. 著者名 中川加奈子	4. 発行年 2020年
2. 出版社 明石書店	5. 総ページ数 396
3. 書名 現代ネパールを知るための60章	

1. 著者名 瀬戸徐映里奈	4. 発行年 2020年
2. 出版社 風響社	5. 総ページ数 99
3. 書名 『亡国の越境者』の100年：ネットワークが紡ぐユーラシア近現代史	

1. 著者名 Kato Atsufumi	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ハノイ国家大学出版	5. 総ページ数 1179
3. 書名 地域学 ベトナム学 研究と教育の方向性	

1. 著者名 加藤敦典	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ナカニシヤ出版	5. 総ページ数 328
3. 書名 ケアが生まれる場 他者とともに生きる社会のために	

1. 著者名 芹澤知広、伊藤まり子、櫻田涼子、加藤敦典	4. 発行年 2019年
2. 出版社 丸善	5. 総ページ数 794
3. 書名 東南アジア文化事典	

1. 著者名 伊地知紀子	4. 発行年 2019年
2. 出版社 嵯峨野書院	5. 総ページ数 357
3. 書名 スポーツをひらく社会学	

1. 著者名 Yaw Ofosu-Kusi & Motoji Matsuda	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 276
3. 書名 The Challenge of African Potentials: Conviviality, informality and Futurity	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	瀬戸徐 映里奈 (Seto-Seo Erina) (00822719)	近畿大学・人権問題研究所・講師  (34419)	
研究分担者	洪 ジョンウン (Hong Jung-Eun) (10882194)	大阪公立大学・人権問題研究センター・特任助教  (24405)	
研究分担者	櫻田 涼子 (Sakurada Ryoko) (30586714)	育英短期大学・その他部局等・准教授(移行)  (42307)	
研究分担者	松田 素二 (Matsuda Motoji) (50173852)	総合地球環境学研究所・研究部・特任教授  (64303)	
研究分担者	芹澤 知広 (Serizawa Satohiro) (60299162)	天理大学・国際学部・教授  (34602)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	加藤 敦典  (Kato Atsufumi)  (60613750)	京都産業大学・現代社会学部・准教授    (34304)	
研究分担者	伊藤 まり子  (Ito Mariko)  (70640887)	京都外国語大学・国際言語平和研究所・客員研究員    (34302)	
研究分担者	中川 加奈子  (Nakagawa Kanako)  (80782002)	追手門学院大学・社会学部・准教授    (34415)	
研究分担者	古川 彰  (Furukawa Akira)  (90199422)	関西学院大学・特定プロジェクト研究センター・客員研究員    (34504)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関